

平成30年度

第20回大分県教育委員会 議事録

日 時 平成31年1月22日 (火)  
開会15時20分 閉会15時55分

場 所 教育委員室

平成30年度  
第20回大分県教育委員会

**【議 事】**

(1) 議 案

第1号議案 大分県先哲叢書編纂審議会委員の委嘱等について

(2) 報 告

①大分県社会教育委員会議による建議について

(3) その他

## 【内 容】

### 1 出席者

委 員	教育長	工 藤 利 明
	委員	林 浩 昭
	委員	岩 崎 哲 朗
	委員	松 田 順 子
	委員	高 橋 幹 雄
	委員	鈴 木 恵
事務局	理事兼教育次長	宮 迫 敏 郎
	教育次長	姫 野 秀 樹
	教育次長	後 藤 榮 一
	参事監兼教育人事課長	法華津 敏 郎
	参事監兼学校安全・安心支援課長	宗 岡 功
	参事監兼特別支援教育課長	後 藤 みゆき
	教育改革・企画課長	中 村 崇 志
	教育財務課長	佐 藤 誠一郎
	福利課長	阿 部 浩 康
	義務教育課長	米 持 武 彦
	高校教育課長	檜 崎 信 浩
	社会教育課長	石 井 利 治
	人権・同和教育課課長補佐	阿 南 修 次
	文化課長	阿 部 辰 也
	体育保健課長	井 上 倫 明
	屋内スポーツ施設建設推進室長	山 上 啓 輔
	教育改革・企画課主幹	下 鶴 直 哉
教育改革・企画課主査	三 浦 晃 史	

### 2 傍聴人

2 名

## 開会・点呼

(工藤教育長)

それでは、委員の出席確認をいたします。  
本日は、全委員が出席です。

ただいまから平成30年度 第20回教育委員会会議を開きます。

## 署名委員指名

(工藤教育長)

本日の議事録の署名委員でございますが、林職務代理者をお願いしたいと思います。

## 会期の決定

(工藤教育長)

本日の教育委員会会議はお手元の次第のとおりです。  
会議の終了は15時45分を予定しています。  
よろしく申し上げます。

## 議 事

(工藤教育長)

はじめに、会議は原則として公開することとなっておりますが、会議を公開しないことについてお諮りします。

第1号議案は、人事に関する案件ですので、地方教育行政の組織及び運営に関する法律第14条第7項ただし書の規定により、これを公開しないことについて、委員の皆さんにお諮りいたします。公開しないことに賛成の委員は挙手をお願いします。

(採 決)

(工藤教育長)

それでは、第1号議案は、非公開といたします。

本日の議事進行は、はじめに公開による議事を行い、次に非公開による議事を行いますので、よろしく申し上げます。

## 【報 告】

### ①大分県社会教育委員会議による建議について

(工藤教育長)

それでは、報告第1号「大分県社会教育委員会議による建議について」石井社会教育課長から報告いたします。

(石井社会教育課長)

報告第1号「大分県社会教育委員会議による建議について」報告いたします。

まず、16ページをご覧ください。

社会教育法の第17条第1項にありますように、社会教育委員は社会教育に関し教育委員会に助言するため必要な研究調査を行うこととあります。また、大分県社会教育委員につきましても、下にあります条例の第2条及び第4条で定数は20人以内、任期は2年となっています。

この度、大分県社会教育委員会議において2年間に渡る研究調査を経て、今後の社会教育行政の指針となる建議を提出いただきましたので説明いたします。

1ページの概要をご覧ください。

昨年12月13日に、大分県社会教育委員長の村田広子氏から「青少年の体験活動の充実・進化を図る社会教育行政のあり方について」建議いただきました。この建議策定の過程では、教育委員の皆様からもご意見をいただいたところです。

左上をご覧ください。

大分県では青少年の自己肯定感が国際的に見ても他県と比較しても低い状況です。青少年の自己肯定感を高め、変化の激しい今の社会を主体的にたくましく生き抜く力を育てていく必要があると考えます。

建議は、これらの力を養うため、子どもたちが直接、自然や人・物などに働き掛け関わっていく体験活動を充実させるとともに、特に学習指

導要領等でも推進されている長期の集団宿泊体験活動についても普及・充実が図られるよう、社会教育行政に提言するものであります。

中段をご覧ください。体験活動・宿泊体験活動の充実・深化の方策として、①青少年団体のノウハウを活用したり、教育課程を支援する内容を取り入れるなど、体験活動の有用性を分析したプログラムを開発提供すること、②教職員や公民館職員等が有用性を理解して体験活動の効果的な企画・運営ができるよう、体験活動の充実に資する関係者への研修を提供すること、③地域にある施設の活用や地域で活動する団体とのネットワーク形成を通して、体験活動の機会拡充に資する教育環境を整備することが挙げられております。

今回の建議を受け、社会教育課では、新学習指導要領の趣旨を生かし、新しい体験活動のプログラムを開発するとともに、教員に体験活動の有用性の理解を図るなど、豊かな体験活動の推進に取り組み、大分県の子どもたちが自己肯定感を高め、社会を生き抜く力を身に付けていけるよう、子どもたちや教員、学校を支援していきます。

また、体験活動する機会の拡充に向け、「協育」ネットワークの中で体験活動の充実を図るとともに、県教育委員会が所管している香々地、九重の両青少年の家を宿泊体験活動の拠点として充実してまいります。

両青少年の家は、主催事業の開発や広報の拡大、出前講座の展開を図る一方で、アスレチックや空調設備など施設設備の整備も進み利用環境も整ってきていることから利用者は増加しています。宿泊体験活動の充実を通し、子どもたちの社会を生き抜く力がしっかりと育成していけるよう努めてまいります。

(工藤教育長)

ただ今説明のありました報告につきまして、ご質問・ご意見等のある方はお願いします。

(松田委員)

全国的な取組を展開をされているボーイスカウトやガールスカウトの指導者、リーダー研修等とも連携していくのでしょうか。

(石井社会教育課長)

ボーイスカウト、ガールスカウトは青少年健全育成に係るプログラムやノウハウをお持ちですので、そのようなところのノウハウをお借りすることや指導者の方に実際に外部指導者としてご協力いただくことも考えていきたいと考えています。

(林職務代理者)

社会を生き抜く力を付けるプログラムを開発するとのことですが、社

会を生き抜く力とは、具体的にどのようなものだと思いますか。私は、社会を生き抜く力の中には、今の社会の問題や多様性を考える力などが含まれていると思います。生きていく術を探すことも大切なことと思いますが、根本的な原因を見つけるようなプログラムを開発することはできないのでしょうか。

(石井社会教育課長)

現在、計画を練っているところです。学習指導要領の中では、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を通して、思考力、判断力、表現力や学びに向かう力、人間性等を身に付けることが目標とされています。これまでの1泊2日の体験活動では振り返る時間はあまり確保できていませんでしたが、今後は子どもたちが自分で考える事を重視し、できるだけ多くの時間を確保することなどを考えています。

(林職務代理者)

確かに研修などいろいろなメニューを準備しますが、一方で子どもたちに与え過ぎないことも大切だと思います。子どもたちが自ら考えていくようなプログラムを開発していただきたいと思います。

(松田委員)

以前は認知能力を重視する研修が実施されていましたが、非認知能力の育成をどのようにしていくかということが求められるようになっていきます。例えば、失敗を恐れず何度でも繰り返し挑戦することや、考え方を前向きにすることなど、青少年健全育成の研修の具体的な内容が示されています。「学びに向かう力」という説明でもよいですが、非認知能力育成プログラムがありますので、それを参考にする方が分かりやすいと思います。

(石井社会教育課長)

国立青少年教育振興機構の調査報告書においても、社会を生き抜く力として自己肯定感、意欲、コミュニケーション力と並んでへこたれない力が挙げられていますので、そのような力を十分育成できるようなプログラムを考えていきたいと思っています。

(後藤教育次長)

移動時間を含んだプログラムですので、1泊2日の宿泊体験では、子どもたちは与えられたプログラムを熟<sup>こな</sup>していくが多かったのですが、2泊3日になれば、子どもたちが問題解決できるような時間を十分作れるようになると思っています。

それから、新しい指導要領にのっとり、地域の皆さんと関わり合いな

がら問題解決を図るプログラムを開発したいと思っています。

(松田委員)

最近では修学旅行において公民館・廃校の跡地を利用して民泊を行うなど、修学旅行で体験活動を含めた形に変わってきているようです。大分県では安心院において、山の方の体験だけではなく、海での漁業体験も行っています。これまでの研修センター中心のプログラムというよりも民泊などを活用していろいろ体験できるようになってきていると思います。

(鈴木委員)

私が高県から移住して感じるのですが、大分県の方は比較的、自分の意見をはっきり伝える事を控えているように思います。それを美德とされているかもしれませんが、相手に自分の思うことを伝える力を付けることはとても大切なことではないかと思えます。

同じ学校の中のいつも親しい友達とだけ関わるのではなく、例えば同じ中学校に進学する予定の子どもたちを集めて話し合う機会を持たせるといったように、少し広いエリアの子どもたちが関わりを持つようにするとよいのではないのでしょうか。

過疎地域や人との関わりが少ない子どもは、高校生に進学した時に戸惑いを覚える事が多いようです。小さな時から大勢の中でも自分の意見が言える力を付けていかないと、社会を生き抜く力は付かないのではないのでしょうか。

私の子どもが高県の農業クラブの会長をしていた時に、東京で開催された全国規模の研修で、全国の農業クラブの会長と話をさせていただく機会をいただきました。方言も考え方も文化も違う中でいろいろな子と話し合う機会をいただいて非常に勉強になったそうです。そして、未だにその子どもたちとつながっています。

出来るだけ広い地域で、特に過疎地域の子どもには多くの子どもと一緒に活動し、自分の意見をしっかり言える機会を作っただけだと、後々社会に出ても自分の意見をはっきり言える力につながるのではないのでしょうか。

(石井社会教育課長)

委員がおっしゃられたように、親兄弟との関係、友だちとの関係だけではなく、異年齢集団等の多様な関係の中で子どもたちがしっかりと発言し、自分の考えや想いを伝えることができるような体験活動になるよう工夫してまいりたいと思います。

(高橋委員)



もともと体験活動は大人が作ったプログラムを子どもたちに体験させるものですので、広い視点から見ていただき、子どもたちが自らの力で行動するようなプログラムを開発していただきたいと思います。

ボースカウト、ガールスカウトのモットーは「よなえよつねに」ということだそうです。体験からたくさんを学びますので、そのように誘導していただきたいと思います。

自分で考える力を育てることや、異年齢の人たちや指導者との会話、地域の方とのコミュニケーションをとることなどは大切にして取り組んでいただきたいと思います。

(石井社会教育課長)

宿泊体験研修の中で、子どもたちが自ら考えるような時間を作りたいと考えています。

(松田委員)

人材育成という観点では、マネジメントできる人材を育てる必要があります。アメリカにはABCスクールというものがあり、指導者の人材育成のプログラムを組んでいます。世界的にどの国でも参考にできるようなマネジメントプログラムになっていますので、そのような諸外国のプログラムを参考にしてもよいのではないのでしょうか。

(工藤教育長)

それでは、先に非公開と決定しました議事を行います。その前に、公開でその他、何かございませんか。

では、先に非公開と決定しました議事を行いますので、関係課室長のみ在室とし、その他の課室長及び傍聴人は退出してください。

(関係課以外及び傍聴人退出)

## 【議 案】

### 第1号議案 大分県先哲叢書編纂審議会委員の委嘱等について

(工藤教育長)

次に、第1号議案「大分県先哲叢書編纂審議会委員の委嘱等について」阿部文化課長から説明いたします。

(説 明)

(工藤教育長)

ただいま説明のありました議案について、審議を行います。ご質問・ご意見のある方はお願いします。

(質疑・意見等)

(工藤教育長)

他にございませんでしょうか。

それでは、第1号議案の承認についてお諮りいたします。第1号議案について、承認される委員は挙手をお願いします。

(採 決)

(工藤教育長)

第1号議案については、提案どおり承認します。

(工藤教育長)

それでは、最後にその他、何かございますか。

それでは、これで平成30年度第20回教育委員会会議を閉会します。お疲れ様でした。